

科目区分：芸術文化課程（音楽文化コース）

授業科目名：ピアノ②・ピアノ③

対象年次：2年次

## 実技演習における授業外学習の促進

音楽教育講座・福富 彩子

### 1. 授業の目的と到達目標

本授業は、古典派中期以降～ロマン派初期のピアノ作品（独奏曲、練習曲）を取り上げて学習し、楽曲構造を理解した上で演奏技術と表現力を高めることを目的としている。卒業研究へ結びつく「ピアノ」は、①～⑤まで段階的に履修していく必要のある科目であり、「ピアノ②、③」は2年次に習得する発展的内容となっている。到達目標は、課題の実施によりピアノに対する知識と演奏能力を身につけ、豊かな表現力で演奏できるようになることである。

### 2. 授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース2回生を対象に前・後期に開講され、演習形式で実施している。今年度「ピアノ②、③」を段階的に履修した受講者は6名であり、全受講者がピアノの演奏経験を有している。最終試験は、演奏会形式による発表を行い、試験終了後に全体の振り返りと個別面談による自己課題の振り返りを行った。

### 3. 授業時に心がけた点

#### 1) 演奏時の音色づくりに関して

演奏時には、楽譜に示された情報を正確に表現することの他に、楽曲構造を認識することで自然かつ適切な表現へと繋げることを目的とした。具体的には、ソナタ形式で書かれたソナタの主要楽章を取り上げ、古典派初期～後期にかけての様式・形式・演奏スタイルの変遷について意識的な表現の模索を受講学生に促した。また、本授業を履修している受講者は、ピアノ演奏に関する基礎

的な知識および技能を有しているため、発展的内容として、高度な技術が要求される“音色づくり”に重点を置いた。具体的には、精緻な打鍵コントロールによって要求する音や和音を作り出すための技能を養うことである。授業時、学習者が演奏しづらいと感じている箇所をピックアップし、その要因を明らかにした上で練習方法をいくつか提案し、毎時の課題とした。また、学習者自身が思考したアイデアを具現化するために、楽曲構造及び表現に関する問いかけを行い、表現内容（アゴギク、デュナーミク、フレージング等）を楽譜に記してもらった。それらの作業により、自らの練習課題を認識し、表現及び技術の向上と授業外学習のモチベーションへと結びつくことを意図した授業展開を心がけた。

各受講者が取り組んだ作品は、ベートーヴェン作曲ピアノソナタ「熱情」、「告别」、「テンペスト」、シューマン作曲「幻想曲」、ショパン作曲「バラード第3番」等に加え、ロマン派（ショパン、リスト、ラフマニノフ等）の練習曲である。

### 4. 授業外学習の促進について

本授業では、課題の実施（実技演習）に専門的な技能と予習・復習が欠かせない。毎時の課題を明示し、一人20～30分ずつ（授業時間外の補講等も含め）、助言・指導を行い、個々の課題や改善点の指摘とフィードバックを行うよう心がけているピアノ演奏における技術・表現の習得には、授業外学習（予習・復習及び授業に関連する学習）が必須となるため、各受講者の課題は、授業開始の約2ヶ月前に相談の上決定し、長期休暇中にも各

自分で準備をしてくるよう課している。また、自己課題の認識と短期での実現可能な目標を掲げてもらい、専門分野として卒業研究に向けた動機付けを高めることを意識して授業を行った。

## 5. 本授業のアンケートについて

本授業終了時、「ピアノ②」および「ピアノ③」を継続して段階履修している受講者6名を対象に10項目（4段階評定、選択、記述式）のアンケートを実施した。結果を以下に記す。

### 1) 全体のアンケート結果

「本授業に興味を持つことができましたか」という質問に対し、全員が「そう思う（100%）」と回答した。また、「本授業の課題についてどう思いますか」という質問に対して、全員が「適切であった（100%）」と回答した。「本授業の進捗について」及び「本授業の難易度について」の質問には、5名が「適切であった（83%）」、1名が「どちらかといえば適切であった（16%）」と回答。さらに、「受講後、新しい知識や技能を得ることができましたか。」との質問に全員が「そう思う（100%）」と回答する一方、「到達目標は達成できましたか」の質問には、1名が「どちらかといえばそう思わない（16%）」、3名が「どちらかといえばそう思う（50%）」、1名が「そう思う（16%）」と回答した。

### 2) 授業外学習に関するアンケート結果

授業外学習に関して、「他の授業と比べて授業以外の学習を良く行ったと思いますか」という質問に「そう思う」と全員が回答した。なお、「授業以外に1回の授業あたり（1週間）平均して、どのくらいの予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか」の質問に対して、授業外学習の平均時間と他の授業よりも授業以外の学習を良く行った理由を記述してもらった。結果を下記に記す。

○受講者A：平均21時間（理由：授業で学んだことを必ず予習・復習したため。毎日取り組むようにした。）

○受講者B：平均20時間（理由：専門分野の授業であり、予習・復習を行うのは当たり前である。

毎日練習しなくては上達しないから。）

○受講者C：平均14時間（専門分野であるため。）

○受講者D：平均32時間（受講するレベルに楽曲を仕上げる必要があるため。ピアノが好きで自分を高めたいと思うから）

○受講者E：平均28時間（自分が学習したい分野であり、上達したいと考えるから。また、音で表現することが好きである。）

○受講者F：平均24.5時間（ピアノを演奏することが好きだから。表現の幅を拡げ、技術を向上させたいと考えるから。）

### 3) まとめと考察

アンケート結果により、全員の受講者が本授業に興味を持ち、受講後に新しい知識や技能を得ることができたと回答したことから、本時の学びを意欲的に捉えていることが伺える。しかし、最終の到達目標については、達成できたと回答したものが少なかった。授業外学習についての質問には、1日平均2～4.5時間確保して予習・復習を行っており、実技の特性上、ピアノの技能・表現の向上には練習が欠かせないことを受講者全員が認識し、取り組んでいることがわかった。

自由記述欄において、「長期休暇中でも取り組む必要がある。」「授業で指導を受けたことを練習し、次へ進まないともったいない。」「演奏の技能向上、音楽性、知識はいずれも将来に必要な力だと考える。」等、自発的・意欲的に取り組む姿勢が強い傾向にあることも受講者の特徴であると考えられる。

## 6. 今後の課題

今後の課題は、有効な振り返り（フィードバック）を授業時にどのように取り入れるか、ということである。限られた授業時間内に、各受講生の自己課題を明確にするとともに、全員参加型での授業内容の検討や、聴講学生との相互作用による課題への意識が高まるような工夫が必要であると考えている。そのためには、映像・録音等を用いたフィードバックを授業の中間及び試験前に取り入れることで、さらに、自発的な学びと授業外学習の促進へと繋がるのではないかと考えている。